

# 3. 発達障害等の基礎理解

## Point

- ・ 気づきが支援の第一歩
- ・ 認めあえる学級集団づくり

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 「気づき」が支援の第一歩！

- 「つまずき」はどの子にもある。
- 同じ年齢にあって、その「つまずき」が大変顕著なものとして見られる場合、その子どもは「とても困っている」ということに、教員や大人が早く気づくことが大切。

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 支援教育からの子ども理解と支援

- 「困った子ども」ではなく、「困っている子ども」
- 「気になる子ども」は、「気にしてほしい子ども」
- 「できない子ども」は、「できない状況に置かれている子ども」
- 「できないことをなくす」ではなく、「得意なところを伸ばす」

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 子どもは何につまずくのか...

- ✓ 学力のつまずき
- ✓ 言葉のつまずき

指導方法の工夫



- ✓ 注意のつまずき

刺激量の調整・作業単位時間の見直し

- ✓ 社会性のつまずき

具体的な翻訳・感情コントロール・折合の練習

- ✓ 運動のつまずき

粗大運動と微細運動の組合わせ  
協応性(リズム運動や模倣運動)と巧緻性

- ✓ 心理面のつまずき

認められる経験・感覚の偏りへの配慮・  
力に見合った負荷を乗り越える経験

### 3. 発達障害等の基礎理解

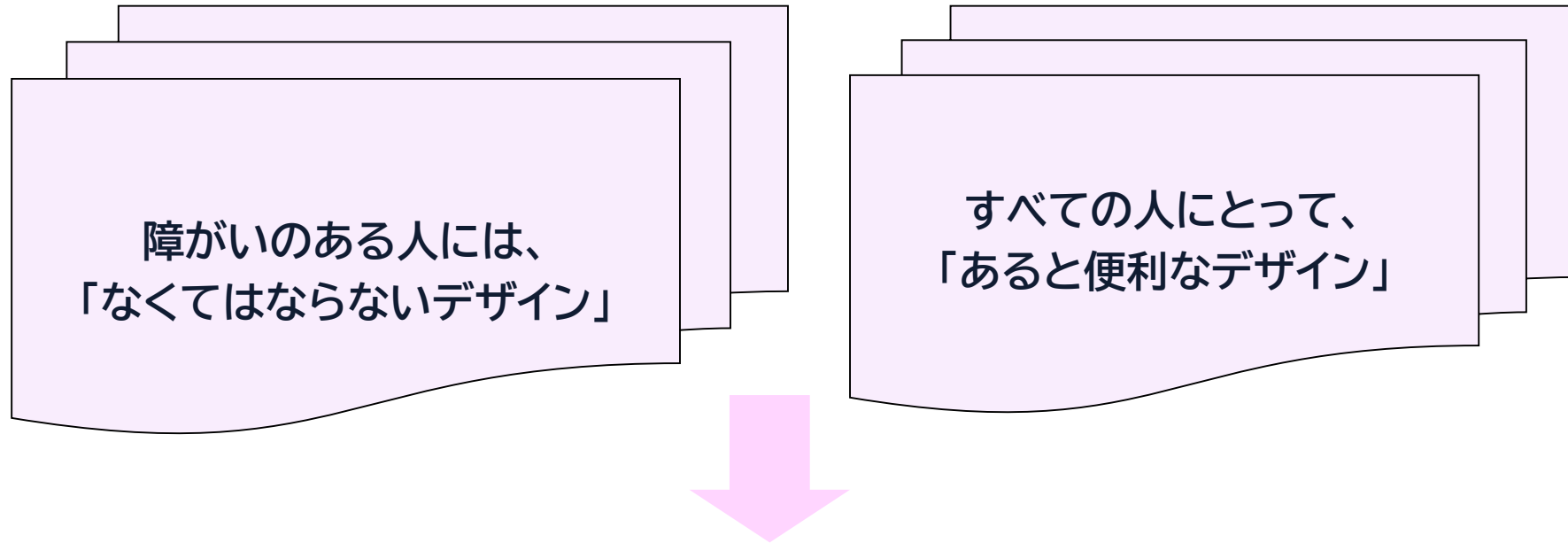
#### <新学習指導要領(解説総則編)から>

- 通常の学級にも、障害のある児童生徒のみならず、教育上特別の支援が必要な児童生徒が在籍していることを前提とする。
- 個々の児童生徒の障がいの状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりが必要

### 3. 発達障害等の基礎理解

## ユニバーサルデザインとは



学校、教室では

支援の必要な子どもにとって、「ないと困る支援」は、  
すべての子どもにとって、「あると便利な支援」

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 学級経営で大切なこと

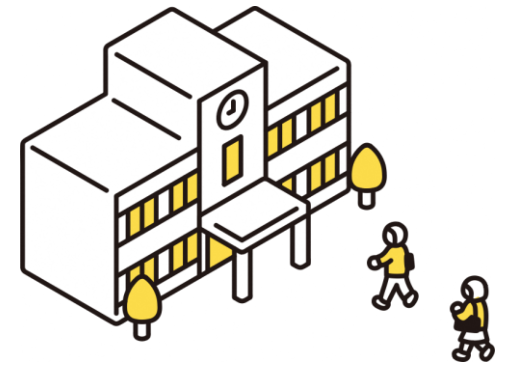
#### 学級とは

- ☆ 行動に対しての評価をする場所
- ☆ 些細なことでもほめられる、認められる場所
- ☆ 居心地のいい場所、存在感のある場所

関西国際大学  
中尾教授

#### 安全で秩序のある学級をつくるために

- ☆ 「イガイガ言葉」を減らす
- ☆ ルールを明確にする
- ☆ 「静寂の時間」を設ける
- ☆ 好意に満ちた雰囲気をつくる
- ☆ 違いを認め合う



桃山学院教育大学  
松久教授

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 認め合える学級集団づくり

#### ・援助的、親和的学級集団

個別の支援や指導が活かされる集団にする

#### ・すべての子どもの「認められたい欲求」を満たす

「～ちゃんだけずるい！」をなくす

#### ・特性をふまえた役割分担での相互承認

よけいな叱られを減らし「～ちゃんさすが！」を増やす

係活動・清掃当番

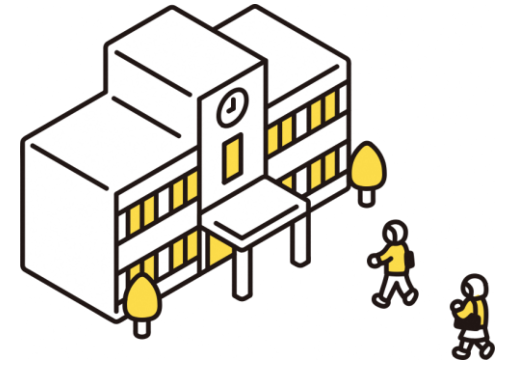
特命係

承認する言葉かけ



ほめことば  
5”S”

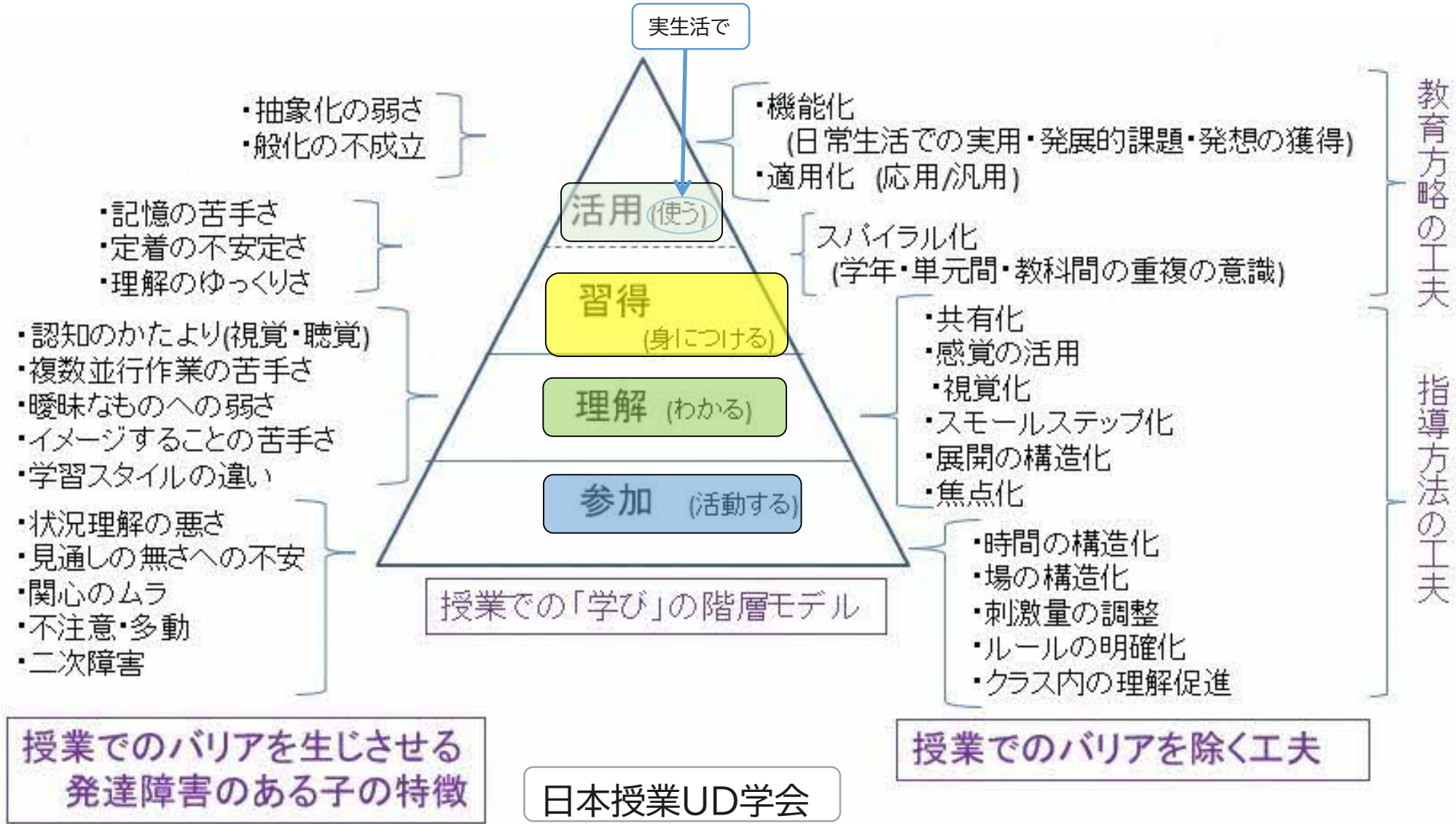
すごい！  
すてき！  
さすが！  
すばらしい！  
それでいい！





### 3. 発達障害等の基礎理解

# 授業のUD化モデル(2012年度版)



### 3. 発達障害等の基礎理解

## ユニバーサルデザイン化のねらい

- ・視覚優位
- ・聴覚優位
- ・同時処理
- ・継次処理
- ・動作性優位
- ・言語性優位

誰にでもある  
認知特性

どこかに合わせるのではなく

多様な学び方を  
保障する

- ✓ 特に認知特性に偏りがある発達障がいのある子ども
- ✓ 優位な特性(強み)を見出す(実態把握)
- ✓ 特性に応じた支援・指導方法の工夫(支援教育の観点)
- ✓ 結果的にすべての子どもにわかりやすいなどの利点あり
- ✓ 自己選択／自己決定・フェイドアウト・発展的課題も忘れずに！

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 授業のUD化の整理

どの子どももわかりたい・参加したい

そのために、わかる授業・全員参加できる授業をめざす

その手法として、支援教育の観点を取り入れたUD化をはかる

UD化のポイントは視覚化・焦点化・共有化

それらを①指導の工夫②個別の配慮③個に特化した指導の3段階で行う(子どもの実態把握に基づき、つまずきを想定)

**教科教育・学級経営が基盤**

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 授業のユニバーサルデザイン化の効果的なポイント

#### 焦点化

- 授業のねらいや学習内容を焦点化し、**絞り込む**

#### 視覚化

- 視覚化などを用い、論理の**見える化**を進め、課題解決できるようにする

#### 共有化

- 共有化を進め、**皆で考え理解を深める**ようにする

その上で…

- 必要に応じて個別の配慮を確実に行う
- ねらいが達成されたことを十分に確認する

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 集団生活に必要なスキルの定着を図る

- (1) 知識として習得
- (2) 設定された場面で練習
- (3) 社会的場面で実地体験
- (4) 「成功」を伴う体験



集団の中で、やればできるんだという  
達成感を味わう

「交流及び共同学習」は  
自立と社会参加に向けた重要な教育活動

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 集中しやすい環境づくり

整理整頓し、視覚刺激の量を低減する





### 3. 発達障害等の基礎理解

## 集団づくり

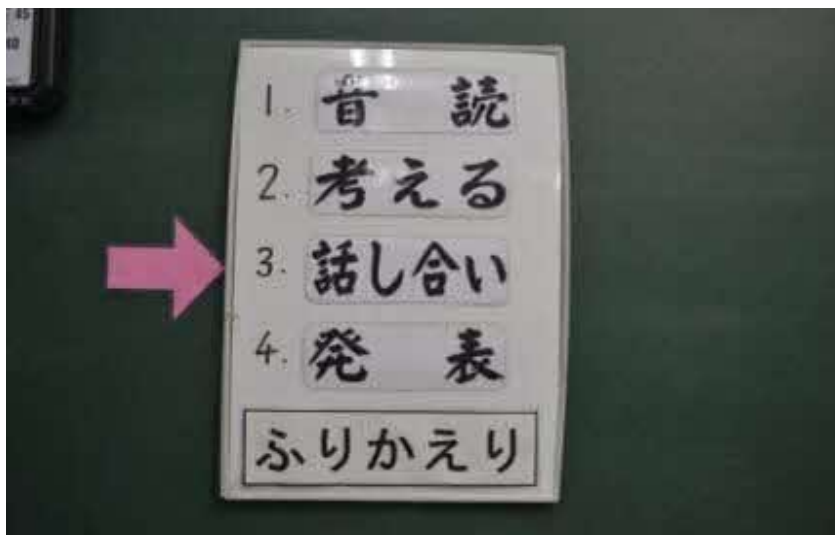
ペアワーク・グループワークを取り入れ、  
活動への参加の促進を図る



### 3. 発達障害等の基礎理解

## 時間の構造化

### スケジュールを見える化する



授業の流れを掲示



年間行事を写真で掲示



### 3. 発達障害等の基礎理解

## ルールの明確化

指示を理解しやすくし、できたことをほめる



まっすぐ並ぶ指示が分かりやすい



できたことを褒める(成功体験)



自己肯定感

### 3. 発達障害等の基礎理解

## 基本は、落ち着いた学習環境づくり

